

# 令和2年度第5回乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会 概要

日時：令和2年7月29日（水）

午後1時半から3時50分まで

場所：長岡京市立図書館 大会議室

## 1 開会・挨拶

山本会長（長岡京市教育委員会教育長）

## 2 出席者

### (1) 協議会委員

○ 山本和紀	会長	○ 永野憲男	副会長	○ 白幡節子	委員
○ 松本克彦	委員	○ 中野緑	委員	○ 福澤秀夫	委員
○ 京樂真帆子	委員	○ 大下和徹	委員	○ 盛永俊弘	委員
○ 榎本和彦	委員	○ 並川康子	委員	○ 岡弘子	委員
○ 馬場信行	委員	○ 尾瀬さち子	委員	○ 竹林広司	委員

以上、15名

欠席者 中條郁 副会長、流石智子 委員

### (2) 研究員

代表研究員及び市町（総括）指導主事 19名

### (3) 各市町教育委員会等事務局

長岡京市 4名 大柳次長兼学校教育課長、渡辺主幹兼学校教育係長、神谷主査、塩貝主事

向日市 2名 松石主席課長兼学校教育課長、森上主査

大山崎町 2名 上田学校教育課長、堀井参与

オブザーバー 京都府乙訓教育局 林企画教育課長

## 3 議題 調査研究に係る最終報告について

代表研究員から、調査研究の最終報告を行った。

（以下、質疑応答及び意見。質疑を「○」、応答を「→」、意見を「◎」で表す。）

### ① 国語

#### 【国語】

○ SDGsに関連するテーマについても取り扱っているが、特徴は。

→ 国語においては従前からSDGsと関連するテーマが多いが、教育出版で示されるマークやテーマ設定については少し強引な印象であった。

### 【書写】

- 教科書のサイズについて AB 判ワイドと B5 判の 2 種類あるが、生徒が持ち運ぶ面などから大きいと不都合があるか。
- 中学校段階では大きさはあまり関係ないとする。見開きで使うときに、タテにして上下 2 面で半紙 1 枚程度として示す工夫もあれば、半面で示して両サイドに指導事項を入れている教材もあり、それぞれに工夫されている。

## ② 社会

### 【地理】

- 1 年生では地理と歴史が並行学習となっている。地理と歴史で教科書が異なるという点の不便さについて意見はなかったか。
- 地理と歴史を同一の発行者にという意見はなかった。地理については地図との連携の必要性について意見があった。
  
- 現場の教員の使い勝手が良い教科書というものが使用価値が高いと思うがどうか。
- 教員としては、章の導入から章をつなぐ問いに沿っていかに一貫した指導ができるかが大きなポイントと考える。帝国書院はシンプルに問いを貫き、まとめまで問いに従って学習できるところが優れている。また、東京書籍は、教科書としての完成度が高く、秀でた部分があるというよりは、どの部分も高いレベルであった。
  
- 「地域調査の手法」の項目で京都を取り上げていることについてのメリットは。
- 京都を取り上げる点について大きな意味があるとは思わないが、身近な地名が出てきて、イメージを持ちながら地域調査について考えることができることは生徒の理解を深めることに大変役立つと考える。

### 【地図】

- 地理との連携がポイントかと思うが、帝国書院は地図として充実していること、東京書籍は資料集としての機能が充実しているとの報告であったが、地理の教科書と併せて使う上では、地図としての充実の方がより評価が高いという認識で良いか。
- 教科書の連携を考えたときに発行者を合わせる点の意味はある。教員の立場としては、地図については資料が多いことよりも、地図そのものから読み取る、地図やグラフから自分で考える、地図そのものの面白さに気付く、といったことを大事にしていきたいと考えるため、地図そのものの充実を一番重視すべきと考えている。

### 【歴史】

- ◎ 学習の道筋がしっかり構成されているのが帝国書院と東京書籍と感じた。
  
- 現在、東京書籍の教科書を使用しているが、使い勝手についての意見はどうか。

→ 東京書籍は長年使用されているため、使い勝手という点で教員も慣れており、その点で不便で使いにくいという意見は聞いておらず、使いやすい教科書である。

◎ 帝国書院は時代ごとに見開き2ページでイメージをつかみやすいイラストが配置され、歴史が苦手な生徒にとっても時代のイメージを持ちながら学習できる点が優れている。

○ 育鵬社の教科書についてはいかがか。

→ 基本的な教科書の構成としては、学び舎、山川出版を除く他の教科書と同様である。人物に着目している点が特徴的であり、特に各時代を代表する女性たちに注目してページを割いているが、一方で人権教育に関連する内容についての取り上げが他発行者に比べて少なかった。

◎ 育鵬社の教科書については課題が多いのではないかと感じる。

○ 山川出版について文字情報が多いという報告であったが、歴史が得意な生徒にとっては使いやすく納得のいく教科書と思うが、生徒にとって難しいという認識か。

→ 紙面に占める文字の割合が大きいとしっかり読む意欲の湧きにくい生徒が多いことから、各発行者において文字以外の資料やイラスト、グラフを配置するなどの工夫が見られる。最近の中学生の発達段階から見ると、やや難しい教科書という認識である。

◎ 帝国書院は自学自習の方法を示したり、QRコードを活用して学習を支援するなど、生徒が主体的に学習できるよう工夫されている点が評価できる。

## 【公民】

◎ 構成は帝国書院と東京書籍が良いと感じている。東京書籍は、特にSDGsの項目が手厚いところが評価できる。

◎ 東京書籍はコンパクトに内容がまとめられているが、ピンポイントで見ると、財政や税金のテーマでは東京書籍よりも他発行者の方が詳しく解説されていると感じた。

◎ 帝国書院は生徒の身近な課題に関連させて資料の見方を考えるなど、生徒にとって取り組みやすい工夫がある。

○ 現代的課題について、東京書籍であれば生徒が市長になって考えるなどの設定があったが、テーマ設定について特徴はどうであったか。

→ 現代の社会的事象についての学習で、東京書籍では「市長になって条例を作る」という生徒がその場に立って自分の問題として考えるという工夫がされていた。教

育出版では中学生の起業を取り上げていたが、将来その子ども達に関わってくる労働問題について取り上げられていないなどの特徴があった。

○ 自由社の学習のまとめでは四百字程度でまとめるよう設定されている点について、先生による評価の難しさという報告があったが、そもそも評価の必要はあるか。

→ テーマを与えて四百字で書くとなると中学生ではなかなか書き切れない。テーマに沿って自分の考えを書くためには社会科の授業の中で指導するという扱いになるため、評価は必要なものとする。章ごとに毎回まとめを行うのは現実的には厳しいと感じる。

○ 小学校からのつながりで、小学校での学習の整理という点はどうか。

→ 小学校での学習内容については、学習に入る前に習ったことを一度想起させ、学習への構えを作ることが重要。東京書籍は小学校で習った言葉の整理とともに、導入の活動をしっかり行い、以後の学習の見通しを持たせるための設定が丁寧で優れている。

○ 公民の調査研究にあたって、歴史との関連性についての比較検討はされたか。

→ 歴史との比較検討は十分できていないが、導入部分で、例えば憲法成立の歴史から人権の単元に入る部分などは確認したところである。

### ③ 数学

○ 現在使用している啓林館についての研究結果はどうか。

→ 小学校でも啓林館を採用し、中学校でも長く使用しているため、生徒と教員の双方が使い慣れており、総合的に優れた教科書である。また、演習問題については、発展問題と章末問題数が多く、自主学習にも取り組みやすい。デジタルコンテンツ数も多く、家庭での学習にも活用が期待できる。

### ④ 理科

○ 観察及び実験の「振り返り」の設定について、どの発行者も「深い学びにつながるよう工夫されている」と同じ表記がなされているが、その中で特に特徴的なものはあるか。

→ 啓林館については振り返りの際に活用できる「探Qシート」がついており、生徒の探究活動がより円滑に進むと考えられる。

また、啓林館と学校図書については、ほぼ全ての実験において、結果と考察の後に振り返る項目が記載され、実験から分かったことや足りなかったことが改めて確認できる工夫があった。

### ⑤ 音楽

○ 日本の唱歌に関して、全く同じものが取り上げられているが、何か決まったものがあるのか。

→ 学習指導要領に定められた教材から選曲されている。

- 中学生や著名人のメッセージが学年ごとに変わっている点など、教育芸術社の方が丁寧で優れているという印象であったが、調査研究においてはどうか。
- 研究員においても、生徒が主体的に学ぼうとするモチベーションや音楽への思いを高めたり、他教科との関連性において、教育芸術社の方が優れているという意見であった。

## ⑥ 美術

- デジタルコンテンツについてはどのようなものであったか。
- 教科書に掲載されたQRコードからは、実際の作品や動画が閲覧できる。発行者間で特に大きな差は感じられなかった。
- 各発行者を比較したときに特徴的なものはあったか。
- 各発行者とも有名作家や生徒の作品の写真や資料を豊富に掲載し、生徒の制作意欲・学習意欲を高める工夫が見られるが、それらの制作過程が比較的詳しく書かれていたのが光村図書であった。美術の苦手な生徒にとっては、制作過程が十分に示されている方が取り組みやすいと考えられる。

## ⑦ 保健体育

- AEDの取り扱いについての各発行者に差異はあったか。
- 各発行者ともAED実習の基礎知識や手順について教科書に掲載されている他、ウェブサイトで動画が視聴できる。内容面での大きな差異はないが、東京書籍のみがオリジナルのデジタルコンテンツを配置し、指導者・生徒が活用しやすい工夫がなされている。
- 東京書籍では発問形式が多く取り入れられている点はどうか。
- 思考判断・言語活動を進めやすいように発問形式となっており、小単元ごとの項目毎にクエスチョンで導入する構成となっている。単元ごとに考える内容が多いため、項目を精査して進める必要がある。

## ⑧ 技術・家庭

### 【技術】

- 章の構成において発行者の特徴はあったか。
- 東京書籍と教育図書は章の構成が系統立てられており、学びの流れがつかみやすい点において優れている。

### 【家庭】

- 東京書籍の付録「防災・減災手帳」が大変良いと思うが、他の発行者についても防災・減災に関する掲載はあったか。

→ 他の発行者にも記載があった。

## ⑨ 外国語

○ 巻末の資料が多いことは指導上の難しさがあるか。

→ 巻末資料については、その内容すべてを詰め込むのではなく、参考に活用するという扱いのため、資料の量でよし悪しが決まるものではないという理解である。指導者としては教科書を扱う上での身体的感覚も大切な要素であると考ええる。

○ 主体的・対話的に学習に取り組むための配慮についてはどうか。

→ 新学習指導要領に従って、各発行者ともに Can-Do リストが掲載され、目指すところがまとめられており、道のりも決まっていることから、どの教科書も大きな差異なく整っている。

○ 文法事項に関する表記の特徴はどうか。

→ 各発行者とも工夫されており、報告書に追記したとおり。教科書ごとに深みやアプローチに若干の違いがあった。文法事項に関しては、教科書だけでなくプリントを使うことも多く、教科書の表記よりも指導者の腕で説明していることが多いのが実態。教科書の表記だけで文法事項の学習に大差が出ることはないと考えられる。

## ⑩ 道徳

○ いじめに関する学習で、中間報告には記載されていた光村図書の「付録」について、今回の報告では省かれているが、その理由は。

→ 指導者によっては「付録」を扱わない場合があるため。

○ 報告書中「魚の涙（さかなのなみだ）」が日本文教出版と光村図書に掲載されており、作品名の表記が漢字と平仮名で異なるが、何か違いはあるか。

→ 作品名の表記は異なるが、内容は同じものである。

○ 報告書2ページ目、いじめに関する学習についての記載欄の区切り方が一部ずれているのでは。

→ ご指摘のとおりであるため、訂正させていただく。

○ 報告書3ページ目、現代的課題の取り扱いで、いじめに関する教材の取り上げ回数について、3年生時に複数回あったと思うがいかがか。

→ 正しくは4回であったため、修正させていただく。